

3. 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に合わせた教育研究活動あるいは学部教育・大学院教育の質を向上させるための独自の教育研究活動

(組織・教育課程の改編、カリキュラム改訂、実務実習の実施体制・内容の変更等)

以下に参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されているが、紙面の関係上本報告書には掲載していない。これらについては、各実施大学のホームページ等で公開することとしているので、ご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2017年（平成29年）度】

<北海道大学>

- ・調整機構の中に委員会やワーキンググループを設け、地区内で共有可能な施設情報登録システムや評価基準を検討している。

<東北大学>

- ・事前学習内容の見直しを行った。
- ・改定モデル・コアカリキュラム実務実習に向けた説明会を開催した。東北各県で同じ内容の説明会を順次開催する予定である。
- ・カリキュラムの見直し。薬事関係法規2（1単位）、臨床コミュニケーション学（1単位）を必修科目として、新しく開講する。

<東京大学>

- ・事前学習における薬物治療関連の講義を、新コアカリで示された代表8疾患をカバーする内容に改定中である。
- ・新コアカリへの対応の前提として、実習施設と実習内容に関して議論し不足点やその対応について検討中である。

<富山大学>

- ・学生の学修の理解を深めるためのFDの実施し、臨床前実習での概略評価の作成を行った。
- ・改訂コアカリに沿った学習について理解を深めるために、OBE説明会、アドバンストワークショップ、スキルアップワークショップ、ワークショップを実施した。

- ・旧来の事前学習以外に4年生前期科目として病院薬学・保険薬局薬学の新科目を設置し、実習前に薬剤師業務を理論的に学習するようにしている。

<金沢大学>

- ・地域薬剤師・薬学教員連携コンソーシアムによる臨床現場での課題解決地域医療体験型教育プログラムの開発に向けた教育研究融合型授業を開始した。
- ・北信がんプロがん個別化薬物療法薬剤師リーダーコースを実施した（金沢大学、富山大学）。【連携】

<岐阜薬科大学>

- ・振り返りレポートを活用した大学・施設間情報連携に関するトライアル実習を進める。
- ・岐阜薬科大学附属薬局におけるトライアル実習を実施した。
- ・ループリック評価の導入を予定している。
- ・、2016年度から、4年生を対象として、多職種連携授業を岐阜大学医学部、平成医療短期大学、岐阜県立看護大学など他大学と連携して実施している。

<名古屋市立大学>

- ・実務実習事前学習の評価改訂と実習前面接を実施する。
- ・改訂コアカリに対応した参加・体験型実務実習に円滑に対応するため実務実習事前学習の授業内容の見直しとともに、評価の改訂を臨床系教員で検討して変更を行っている。改訂前では知識レベルの習得度を測るペーパーテストや口頭試問、チェックリストが主であったが、ポートフォリオ評価と週報によるフィードバックと採点を主とした評価に変更し試行中である。
- ・参加体験型の実習に臨むにあたり、事前学習修了者全員に臨床系教員が面接を行い学生の要望や不安を聞取るとともに、メンタルな課題の洗い出しを試行している。昨年度から本面接で得た情報を、実習担当教員と共有し、必要があると思われる実習生の個別情報を学生が同意したものについて実習施設への伝達を始めた。
- ・本学生面接と教員・実習施設への情報提供が有効であるかについて 現在解析を行っている。
- ・東海薬学教育コンソーシアムによるワークショップを開催した。
- ・東海地区調整機構に所属する薬系大学（名市大薬、岐阜薬科大、静岡県大薬、名城大薬、愛知学院大薬、金城学院大薬、鈴鹿医療科学大薬）7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、名市大薬に拠点を置き、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。【連携】
- ・6年間の一貫した医療人教育評価の検討と導入として、1年生入学時から卒業までの一貫した医療人としての成長記録とその評価を行うため、授業や学年を超えた総合的な評価方法の検討を行い、開始した。

<京都大学>

- ・京都府薬剤師会と連携し、2019度からの改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習における実習環境の整備を目的として、近隣薬局を集めた実務実習グループ協議会を開催した。受入可能性のある薬局に対し、代表的な8疾患に関わる業務の深さおよび在宅医療・セルフメディケーション業務の深さをアンケート調査した。
- ・京都大学附属病院薬剤部での実務実習を紹介するインターネット講義を実施するとともに、一堂に会してのグループ協議ワークショップを開催した。
- ・在宅医療・セルフメディケーション・地域で活躍する薬剤師の3項目を取り上げ、それぞれ現状の実習の問題点とその対処法などについて協議した。
- ・臨床体験講習として、4年次後期医療実務事前学習期間中に京都大学医学部附属病院看護部の看護師に、非常勤講師の指導でフィジカルアセスメント実習を実施した。
- ・1年次の入学時オリエンテーションにおいて、心肺蘇生のトレーニングキットを用いた救命講習を行っている。それを受けて4年次に京都市左京消防署より講師を派遣していただき、シミュレーターを用いて一次救命講習を実施した。

<岡山大学>

- ・病院実習：改訂モデル・コアカリの基本理念であるoutcome-Based Education (OBE)を視野において、ポートフォリオを用いた振り返りの有用性を検証するとともに岡山大学病院で独自に作成したループリックを用いた到達度評価のトライアルを行っている。
- ・病院実習：薬学部教員4名と、薬剤部の各部署の責任者(9名)＋担当副薬剤部長が月に1回、実務実習WGを開催し、実習上の問題点の共有と解決方法について、また改訂モデル・コアカリ対応実習における形成的評価の方法や、薬局との情報共有の方法などについて不断の議論を行っている。
- ・科目等履修生の病院実習：2109年度からの導入を見越して、Webシステムの使い勝手を知るために、科目等履修生の病院実習にWebシステムのトライアルを実施した。
- ・県薬剤師会、就実大学および本学の臨床系教員が月1回薬局実習委員会を開催し、2019年度からの改訂モデル・コアカリ対応の薬局実習の受入れ先ならびに評価方法等について議論している。
- ・県薬剤師会・県病院薬剤師会・大学の三者による実習特別委員会を数か月に1回の頻度で開催しており、改訂モデル・コアカリ対応実習における事前実習～薬局実習～病院実習の内容共有や、統一化したループリックでの連続的な評価につき検討を行っている。
- ・8疾患の実施可能性を把握するために、実習特別委員会で作成した連携ツールを用いて、薬局・病院の順番となった学生で、トライアルを実施した。
- ・中国・四国地区の薬学部・薬科大学等で構成される大学委員会を数か月に1回の頻度で開催しており、地区で統一した実務実習計画書や、事前実習のループリックに

ついて検討している。【連携】

- ・事前実習の形成的評価を大学独自で作ったルーブリックで行っている。
- ・早期体験学習として救命処置をシミュレーターで実施できるようにカリキュラムを変更した。
- ・終末期医療における全人的ケアを学ぶ演習を行っている。
- ・5, 6年次の選択科目として行っていたフィジカルアセスメントを2年次の早期体験学習と4年次の事前実習に取り入れ必修化した。
- ・希望学生に対し、薬剤師が主体的に薬学的アセスメントを実施している在宅医療現場の見学体験をさせている。

<広島大学>

- ・改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した長期実務実習の連携体制の構築を行った（大学・薬局・病院の連携システム、評価指標の設定、トライアルの実施など）
- ・薬剤師会との連携による薬剤師を対象とした在宅支援薬剤師専門研修会（無菌製剤、バイタルサインなど）を実施している。

<徳島大学>

- ・授業内容とカリキュラムの再編成を行っている。

<九州大学>

- ・改訂コアカリ対応薬局実務実習トライアルを実施した。
- ・早期体験学習において心肺蘇生実習を実施した。

<長崎大学>

- ・日本薬剤師会の薬局実習トライアルへの協力を薬局において実施している。
- ・地域薬剤師卒後教育研修センターでの教育研究活動を推進した。

<熊本大学>

- ・医学部の協力を得て、医学生との臨床実習（ポリクリ）を実施した。
- ・独自の全学年を通したe-ポートフォリオを導入した（事前学習と実務実習との連携を重視）。
- ・PROGテスト、マナー人材育成の講義を実施した。
- ・アントレプレナーの講義とスモールグループディスカッションを実施した。